

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

カラスバト

Columba janthina janthina Temminck, 1830

永田尚志（新潟大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：永田尚志，2026．カラスバト．環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 681-685．

Citation: Nagata, H., 2026. *Columba janthina janthina* Temminck, 1830. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 681-685.

カラスバト

Columba janthina janthina Temminck, 1830

カテゴリー判定結果 準絶滅危惧 (NT) ②

基準 A: VU 未満	基準 B: VU 未満	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
-------------	-------------	---------	---------	---------

生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。
具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。

②生息条件が悪化している。

【判断理由】

釣りブームにより繁殖している沿岸島嶼、および筑前沖ノ島などの避難港では、停泊する漁船から、ノネコやドブネズミ、クマネズミなどの外来捕食者が侵入し、生息数が減少していると考えられる。

評価分科会： 鳥類分科会

概要

種カラスバト (*Columba janthina*) の基亜種で、太平洋側では、伊豆諸島から宮崎にかけて、日本海側では最北端の山形県飛島を除くと、若狭湾より西の地域、九州の沿岸部の島嶼、薩南諸島、中北部琉球諸島、伊豆諸島の島嶼に生息している。本州・九州周辺の付属諸島、伊豆諸島、大隅諸島、奄美諸島、沖縄諸島に留鳥として分布すると考えられている。国の天然記念物として保護されている。島嶼部に生息すること、季節移動をしている可能性もあり、正確な生息個体数の増減は不明である。ノネコやドブネズミ、クマネズミなどの外来捕食者が侵入した島嶼では個体数が減少していると考えられる。

基礎情報

【形態】

種カラスバト (*Columba janthina*) の基亜種で、本州・九州周辺の付属諸島、伊豆諸島、大隅諸島、奄美諸島、沖縄諸島に留鳥として分布する。国の天然記念物として保護されている。国外では、韓国南部の海岸部とその付属諸島、鬱陵島、濟州島にも分布する。

全身黒色で紫や緑色の金属光沢がある。喉は、特に緑色の金属光沢が強く、首から胸・背中にかけて緑色、背面中央は赤紫色の光沢がある。虹彩は褐色、嘴は暗青色で先端は緑色で、脚は赤色である。全長 40 cm で、ドバト (*Columba livia*) より大きい。翼長 213-246 mm、ふしよ長 30-38 mm。幼鳥は、頭部が暗褐色で金属光沢がなく、後頭部、背中、腰の羽縁だけに金属光沢があり、体の下面は褐色で赤錆色の縁がある。

【生活史】

温暖な島嶼部の常緑広葉樹に生息し、果実（液果、堅果）を食べる。本州・九州本土の海岸部でも観察されるが、確実な繁殖記録は少ない。伊豆諸島、薩南諸島、沖縄諸島では冬期に大きな集団ねぐらを作るため比較的よく観察できる。本州・九州の周辺の小島で繁殖しているため、本種の生息数、生息状況および生態については、詳しくわかっていない。照葉樹林の伐採にともない生息環境は急速に減少している。

八丈島から八丈小島へ採餌のために海を越えて往来することも知られている。一夫一妻で繁殖し、常緑樹の（樹上 1.5-7 m）や岩棚に小枝を組み合わせた粗末な皿型の巣を作るが、捕食者のいない島嶼部では地上営巣の記録もある。産卵期は 2 月から 9 月にかけて 1 卵を産卵する。多くの地域では留鳥と考えられるが、沖縄島では冬季に大きな群れを形成することが知られている。日本海側の粟島や飛島では、渡りの時期に通過する個体が観察されていることから、日本海北部の個体群は渡っている可能性もある。

【生息環境】

九州、薩南諸島、北部琉球諸島、伊豆諸島、高知県、西日本の日本海側の常緑広葉樹が分布する島嶼に分布する。伊豆諸島ではツバキ、スダジイ、タブなどの常緑広葉樹が茂る島嶼に生息する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林 【陸域_平地部 海岸部】森林
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (7) 島嶼地域

【分布域】

日本海側では、周防灘、隠岐諸島、若狭湾、山形県飛島で繁殖期に記録がある（飛島、冠島、長島大島、鈴島、赤野島、隠岐、牛島）。東シナ海側では、鹿児島県から福岡県にかけて広い範囲の島嶼部に分布している（甌島諸島、天草諸島（桑島、大島、法ヶ島）、五島列島、対馬、壱岐、玄界灘（高島、加唐島、松島、馬渡島、筑前沖ノ島、筑前大島、玄界島、姫島、馬島、地島、藍島、白島））。太平洋側では、琉球諸島（沖縄島、粟国島、伊是名島、伊平屋島、久米島、渡嘉敷島、座間味島、屋嘉比島、阿嘉島）、薩南諸島（上三島諸島（黒島）、屋久島、種子島、口永良部島、宇治群島、トカラ列島、奄美諸島）から九州東

岸（深島、無垢島、大分市高島、宮崎大島、枇榔島、小枇榔、宮崎大島）、四国沿岸（愛媛、宿毛沖の島、蒲葵島、宿毛姫島）、東京湾猿島、伊豆諸島（大島、利島、式根島、新島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、八丈小島、青ヶ島）にかけて広く分布している。

現在の生息状況

【分布域の現況】

日本海側（飛島、冠島、牛島、隠岐の島）、九州の東シナ海の島嶼（甌島、対馬、五島列島、玄界灘（筑前沖ノ島、筑前大島、地島、藍島、白島））、琉球諸島・薩南諸島から伊豆諸島にかけての太平洋側の島嶼に広く分布する（沖縄諸島（沖縄島、粟国島、伊是名島、伊平屋島、久米島、渡嘉敷島、座間味島、屋嘉比島、阿嘉島）、トカラ列島、奄美群島、屋久島、種子島、口永良部島、宮崎大島、高知県（宿毛沖の島、蒲葵島、宿毛姫島）、伊豆諸島（大島、利島、式根島、新島、神津島、三宅島、八丈島、青ヶ島））。

【生息地の現況】

太平洋側では、伊豆諸島から宮崎にかけて、日本海側では山形県飛島、若狭湾より西の地域、九州の沿岸部の島嶼に生息している。薩南諸島、中北部琉球諸島の島嶼にも生息する。

【個体数の現況】

島嶼部に生息すること、季節移動をしている可能性があり、正確な個体数は不明である。そのため、個体数の増減傾向も不明。

存続を脅かす要因

ノネコやドブネズミ、クマネズミなどの捕食者が侵入した島嶼（筑前沖ノ島など）では個体数が減少していると考えられるが、個体数を推測できる情報はない。

要因の区分：	（過去）	海岸開発，捕食（外来種による）
	（現在）	海岸開発，捕食（外来種による）

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020：	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	NT
第4次 2019：	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	NT
第4次 2018：	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	NT
第4次 2017：	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	NT
第4次 2015：	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	NT

第4次:	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	NT
第3次:	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	NT
第2次:	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	NT
第1次:	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	V

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【山形県】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【千葉県】消息不明・絶滅生物(X), 【東京都（伊豆諸島）】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【神奈川県】絶滅(繁殖期)、絶滅(非繁殖期), 【福井県】要注目, 【三重県】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【京都府】絶滅寸前種, 【島根県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【広島県】情報不足(DD), 【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【愛媛県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【高知県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【佐賀県】準絶滅危惧種, 【長崎県】準絶滅危惧(NT), 【熊本県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【大分県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【宮崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU-r), 【鹿児島県】準絶滅危惧, 【沖縄県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国指定天然記念物, 鳥獣保護管理法, 都道府県条例指定種【三重県】

参考文献

- 安藤温子・森由香・佐藤望, 2017. 伊豆諸島八丈島と八丈小島におけるカラスバトの島間移動行動. Bird Research, 13: S35-S40.
- 安藤温子・市石博, 2023. 伊豆諸島八丈小島におけるカラスバトの営巣状況. Bird Research, 19: S15-S22.
- 飯島大智・小田谷嘉弥・築川堅治, 2019. 山形県飛島におけるカラスバト *Columba janthina* の最北の交尾・求愛行動の観察記録. 日本鳥学会誌, 68: 73-76.
- 岩崎由美・市石博, 1999. 伊豆大島・利島におけるカラスバトの埒. Strix, 16: 89-98.
- 中村豊・児玉純一, 2001. 宮崎県の枇榔島と小枇榔におけるカラスバト *Columba janthina janthina* の地上営巣例. 日本鳥学会誌, 50: 37-41.
- 渡久地豊・金城道男・市田豊子, 1996. 沖縄北部におけるカラスバト *Columba janthina* の夏期の集団埒. Strix, 14: 177-181.
- 山本健次郎, 1998. 「この鳥を守ろう」の現在 第34回 カラスバトその2; 光市牛島のカラスバトを中心に. 私たちの自然, 437: 6-9.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Columba janthina janthina has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Columba janthina janthina* is listed as NT under criteria ②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】 Forest
Threat types:	Coastal development, Predation (by alien species)
Law designation status for conservation	Nationally Designated Natural Monument. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act. Prefectural Ordinance-Designated Species 【Mie】 .



©池田昇平（湖北野鳥センター）

執筆者: 永田尚志（新潟大学）

Author: Hisashi Nagata

公表年月：2026 年 3 月